

問題：狩猟採集社会と農耕社会の相互関係の歴史を考古学でアプローチするには？

1. 石器研究

北部ルソン島カガヤン州ベニャブランカ石灰岩台地洞穴群出土の石器群の製作技法と機能の分析
不定形剥片石器群、「切る」「削る」というメンテナンス用道具 道具を作る道具の機能

2. 狩猟採集社会イタの人びとの生業活動

民族考古学という調査：石器は鉄器に代わっても、生業活動全体のなかで道具がどのように作られているか？

植物性素材の利用のしかた：狩猟、植物性食料採集、漁労、薬、燃料

食べる、噛む、包む、束ねる、結ぶ、貫く、接着する、飾る：植物素材の道具がさまざまな生業活動に織り込まれる

熱帯雨林内での植物性食料の獲得：狩猟活動に比べ、採集は低調 肉、籐、労働、現金で交換

熱帯雨林から食料の持ち出しは困難：バイオマスは膨大でもエネルギー循環が過不足なく行われるシステム

いつも山裾の農民が集落を訪れ、森の産物を依頼 アンバランスなレートに不満

生業技術が異なる集団が接触しながらも、なぜ吸収したり、されたりしなかったのか？

3. 貝採集・漁労社会

調査地：低地から丘陵、森林まで：広い地域を調査し、全体の遺跡の変化を追う 発掘と民族調査併行

カガヤン河下流域：河岸の貝塚の上に貝採集・漁労の村、石灰岩台地に狩猟採集民

現在採集している貝種と貝塚を構成する貝種が同じ：淡水産二枚貝2種、戦後から採集されはじめたシジミ

貝塚：最大のもので500×100m、深度2m以上、現在は貝殻の供給は少量、貝殻ごと売買され、村外で消費

貝採集：道具、採集方法、貝の生息域、一日の収量と収入、漁労：魚種に対応した漁具、回遊魚の季節性、魚骨標本
カビビの個人平均収量は、一日平均5.2時間の採集時間で4.2kg。調査事例中、貝の収穫が全くないという事例なし。

貝塚形成年数の推定：個人収量と仲買人買い上げ量から年間収量推定 22～86トン：自家消費以上の収量 交換材
カタヤワン貝塚の規模が500m×100m×2m=100,000m²、サンプリングの結果から、20cm角(0.008m²)の貝の重量=3kg、これから
1m²の貝重量=375kg、100,000m²=37,500トン÷年間総収量22トンとすると、形成期間は1,705年、37,500トン÷年間総収量86ト
ン=436年となる。先史時代のこの集落が20家族の場合、貝塚形成期間は、8,525年～2,180年となる。しかしカタヤワン貝塚の形成
期間は、約1,000年と推定されるため、形成期間が長いとするよりも、貝収量が多かったと考える方が妥当である。すると先史時代
の貝収量は現在の8～2倍。

貝塚発掘：90%以上の貝比率、炉、ピット、伸展葬墓、甕棺墓、土器、石器、動植物遺体、鉄生産

貝殻成長曲線による貝層季節同定と貝層形成過程の推定

土器編年からラロ貝塚群を6期(4000年前以前から現代)に区分 遺跡分布の変化パターン

貝以外の生業 稲作：水田址発掘

4. 洞穴発掘

洞穴内にも貝層形成：土器と剥片石器共伴 貝塚では完成品剥片石器が10点以下、洞穴では2m²で80点出土

狩猟採集民の居住の可能性、同時に河岸と同種の貝層・土器の出土

5. 低地と山地社会の相互関係

ラロでは両者日常的に交流、混血

東南アジア先史時代の両者交流の説明：

ハイネゲルデルン：隔離モデル

ピーターソン：交換適応

ヘッドランド：ドミナント社会に飲み込まれる現実、熱帯雨林には農耕社会からの援助なくしては生存できない
農耕社会出現以前の熱帯雨林中遺跡を世界中で検討、野生ヤマは熱帯雨林に存在するか？

ドミナント社会に従属的なイタ社会 スペイン以前、20 世紀以前 文書：低地の祭りに招かれるイタ、いっぽう紛争時にはマニラに軍隊派遣要請：現在とは異なる両社会の関係のあり方

交換材：鉄、食料、労働力

相互関係の変遷：

農耕社会の出現：狩猟採集社会の熱帯雨林への進出

海域沿岸社会間の交流：ベトナム中部、台湾南部の耳飾

「大きな社会」に徐々に従属化：複雑な農耕社会の発展、鉄生産、陶磁交易 森の交易・交換材の提供：農耕社会との格差

20 世紀：第四世界、消滅の危機、イタが農耕民になるのを妨害するのは農民：財の競合を防ぐ

文献目録

Headland, T. N.

1986 Why Foragers Do Not Become Farmers: A Historical Study of a Changing Ecosystem and Its Effect on a Negrito Hunter-Gatherer Group in the Philippines. 2 vols. Unpublished Ph. D dissertation, Ann Arbor: University of Michigan.

1987 The wild yam question: How well could independent hunter-gatherers live in a tropical rain forest ecosystem? *Human Ecology* 15: 463-491.

Headland, T. N. and R. C. Bailey

1991 Introduction: Have Hunter-Gatherers Ever Lived in Tropical Rain Forest Independently of Agriculture? *Human Ecology* 19:2: 115-122.

Headland, T. N. and L. A. Reid

1989 Hunter-gatherers and their neighbor from prehistory to the present. *Current Anthropology* 30: 43-66.

1991 Holocene foragers and interethnic trade: A critique of the myth of isolated independent hunter-gatherers. In S. A. Gregg, (ed.) *Between Bands and States*: 333-40. Center for Archaeological Investigations. Southern Illinois University at Carbondale. Occasional Paper No. 9.

Hutterer, K.

1976 An Evolutionary Approach to the Southeast Asian Cultural Sequence. *Current Anthropology* 17: 221-242.

1982 Interaction between Tropical Ecosystem and Human Foragers: Some General Considerations. Working Paper. Environment and Policy Institute, East-West Center, Honolulu.

1983 The natural and cultural history of Southeast Asian agriculture. Ecological and evolutionary considerations. *Anthropos* 78: 69-212.

小川英文

1984 「不定形剥片石器考—フィリピン、ルソン島ラトゥ・ラトゥ洞穴出土石器群の分析」 『史観』 111: 88-120

1985 「ベニアプランカ・ネグリート」 『えとのす』 27: 13-20, 55-73

1986 「東南アジアの初期農耕論をめぐって」、スチュアート ヘンリ編 『世界の農耕起源』: 175-225、雄山閣出版

1996 「狩猟採集民ネグリの考古学」、スチュアート ヘンリ編 『採集狩猟民の現在』: 183-222、言叢社

1997 「貝塚洪水伝説」、『東南アジア考古学』 17: 119-166

1999a 「考古学者が提示する狩猟採集社会イメージ」、『民族学研究』 63-2: 192-202

1999b 「東南アジアと日本の貝塚の比較」 『季刊 考古学』 66: 29-34

1999c 「自然と生業」、上智大学アジア文化研究所編 『新版入門東南アジア研究』: 23-35、めこん

1999d 「東南アジア 発掘の歴史と考古学の課題」、吉村作治編 『東南アジアの華 アンコール・ポロブドゥール』: 74-89、平凡社

2000a 「狩猟採集社会と農耕社会の交流 - 相互関係の視角 -」、小川英文編 『交流の考古学』: 266-295、朝倉書店

2000b (編著) 『ラロ貝塚群の発掘調査』、科研(基盤 A(2))報告書、232 pages

2000c 「狩猟採集民」、安斉正人編 『用語解説 現代考古学の方法と理論 III』: 131-141、同成社

2000d 「ナショナリズム」、安斉正人編 『用語解説 現代考古学の方法と理論 III』: 187-198、同成社

2000e 「文明」、安斉正人編 『用語解説 現代考古学の方法と理論 III』: 227-234、同成社

2001 「ラロ貝塚群の発掘調査とその年代」、『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』 12: :6-16

2002a (編著) 『カガヤン河下流域の考古学調査』、科研(基盤 A(2))報告書、269 pages

2002b 「ラロ貝塚群赤色土器の様相 - 無文赤色土器の位置づけをめぐって」 『外大東南アジア学』 7: 73-96

Peterson, J. T.

1978 *The Evolution of Social Boundary*. University of Illinois Press.

Peterson, J. T. and W. Peterson

1977 Implications of Contemporary and Prehistoric Exchange Systems. In J. Allen, J. Golson and R. Jones (eds.) *Sunda and Sahul*: 567-599. New York: Academic Press.